

## ユスラウメ、ニワウメ台利用によるモモのわい化栽培

菊地 秀喜・川原田 忠信

(宮城県園芸試験場)

Peach Growing by Using Dwarf Rootstocks, *Prunus tomentosa* and *Prunus japonica*

Hideki KIKUCHI and Tadanobu KAWARADA

(Miyagi Prefecture Horticultural Experiment Station)

### 1 はじめに

従来、モモの台木は共台が多く、樹高は4.5~5.0mにもなり、作業性が悪いので、リングのわい性台木のようなわい化効果のある台木の検索が望まれていた。近年、ユスラウメやニワウメにモモを接木するとわい化することが明らかになったので、本試験でもユスラウメ、ニワウメ、それぞれ2系統を供試し、樹体生育、果実品質などについて調査を行った。

### 2 試験方法

#### (1) 供試台木、品種

ユスラウメ (平塚, 岡山大), ニワウメ (平塚, 荒川沖) の各々2系統供試した。いずれもスモモの台木であるミロバランスモモに接木し、二重台として供試した。中間台の長さは20cmで、穂品種‘あかつき’を1984年8月に各台木に接木した。

また、ニワウメ (平塚) と穂品種の親和性、果実品質を知るために‘さおとめ’, ‘都白鳳’, ‘紅清水’, ‘山根白桃’, ‘フレーバートップ’を接木した。果実品質の比較のためにそれぞれの品種の山桃台の樹も供試した (1980年定植)。

#### (2) 栽植様式, 栽培管理

栽植距離は、列間4m×樹間2mとし、樹形は主幹形とした。試験は1区3樹で2反復とした。わい性台木、共台とも慣行通り摘蕾し、長果枝2果, 中果枝1果, 短果枝5本に1果の割合で仕上げ摘果した。

#### (3) 調査項目

①樹高, 樹幅, 幹周: 1986年から4年間落葉後に計測した。幹周は接木部の上20cmで測定した。②収量: 1樹当りの収量を測定した。③果実品質: 糖度, pH, 果実内の渋味を常法により調査した。④親和性: ニワウメ (平塚) と供試品種の親和性を台負け率として表した。台負け率は以下の式で算出した。

$$\text{台負け率} = \frac{\text{接木肥大部真下の幹周}}{\text{接木肥大部の幹周}} \times 100$$

### 3 試験結果及び考察

#### (1) ‘あかつき’の生育と品質に及ぼす台木の影響

##### 1) 樹体生育

供試した4種類の台木の中で、ニワウメ (平塚) 台の幹周, 樹高, 樹幅が各年次とも最も大きく、生育が旺盛であった。ユスラウメ (平塚) 台の樹高は各台木に比べ小さく、最もわい化傾向を示した。各台木とも樹高は3.5m~4.0mに、樹幅は2.0m~2.5m程度に維持可能であり、共台より小さな樹高で、10a当り125本の栽植が可能と思われた (図1)。

#### 2) 収量

供試した4種類の台木の中で、ニワウメ (平塚) 台の収量が各年次とも多く、1樹当り20kg, 10a当り2.5t程度の収量が得られると思われる。ニワウメ (平塚) 台に次いでユスラウメ (岡山大) 台, ニワウメ (荒川沖) 台は少ない傾向であった (図1)。

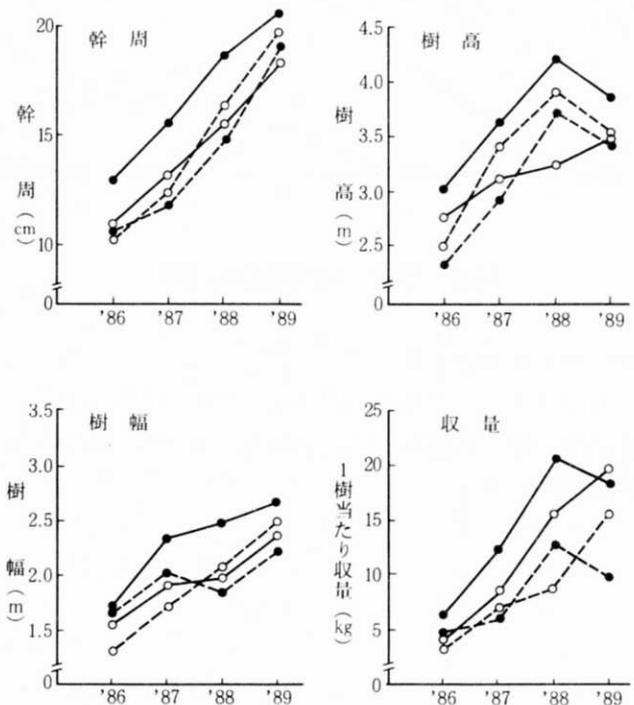


図1 ユスラウメ、ニワウメ台樹‘あかつき’の生育と収量の年次変化

注. ○—○ ユスラウメ (平塚)  
○---○ ユスラウメ (岡山大)  
●—● ニワウメ (平塚)  
●---● ニワウメ (荒川沖)

#### 3) 果実品質

ニワウメ (平塚) 台の果実は、他の台木の果実より大き

く、ユスラウメ（岡山大）台が最も小さかった。ニワウメ（平塚）台の果実は、他の台木よりやや糖度が高く、pHが低い傾向であった。ユスラウメ（岡山大）台の果実にはかなり渋味があった。ユスラウメ（平塚）台、ニワウメ（荒川沖）台もやや渋味を感じたが、ニワウメ（平塚）台には認められなかった（表1）。

表1 わい性台木がモモ‘あかつき’の果実品質に及ぼす影響（1986年）

	1果重 (g)	着色面積 (%)	糖度 (%)	pH	渋味
ユスラウメ (平塚)	160.0	87	12.4	4.42	微
ユスラウメ (荒川沖)	130.6	64	12.0	4.44	中
ニワウメ (平塚)	188.9	63	12.7	4.23	なし
ニワウメ (荒川沖)	162.1	75	12.3	4.47	微
共 台	206.6	73	11.5	4.52	なし

(2) ニワウメ（平塚）台の果実品質と接木親和性

1) 果実品質

ニワウメ（平塚）台の一果重は、共台より‘紅清水’、‘フレーバートップ’がやや大きくなり、‘さおとめ’、‘山根白桃’は小さかった。糖度はニワウメ台の紅清水、‘山根白桃’、‘フレーバートップ’で山桃台より高くなる傾向が認められた。各品種とも果実内に渋味は感じられなかった（表2）。

2) 接木親和性

ニワウメに接いだ各品種共接木部の肥大が目立ち、肥大部の真下の肥大部分が極端に細くなり、台負けした。台負けは品種間差が認められ、‘フレーバートップ’の台負けが著しく、‘ゆうぞら’、‘紅清水’では小さかった（表3）。

表2 ニワウメ（平塚）台の品種別果実品質（1988年）

品 種	1果重(g)		糖度(%)		渋 味	
	ニワウメ台	共台	ニワウメ台	共台	ニワウメ台	共台
さおとめ	118.9	184.4	7.5	8.0	なし	なし
あかつき	173.0	193.9	12.1	12.2	なし	なし
都白鳳	202.1	199.4	10.8	10.2	なし	なし
紅清水	183.1	172.0	11.8	10.9	なし	なし
山根白桃	196.1	245.0	11.6	8.7	なし	なし
フレーバートップ	214.5	190.0	10.6	8.8	なし	なし

表3 ニワウメ（平塚）と穂品種との接木親和性（1988年）

品 種	接木肥大部の幹周 (cm)	接木肥大部真下の幹周 (cm)	台負け率 (%)
さ お と め	20.2	18.4	91.1
あ か つ き	21.9	18.7	85.4
都 白 鳳	22.6	19.4	85.8
紅 清 水	24.4	23.3	95.5
山 根 白 桃	23.4	20.3	86.8
フ レ ー バ ー ト ッ プ	16.2	13.3	82.1
ゆ う ぞ ら	23.3	22.4	96.6

注. 台負け率 =  $\frac{\text{接木肥大部直下の幹周}}{\text{接木肥大部の幹周}} \times 100$

4 ま と め

供試した4種の台木の中では、ニワウメ（平塚）が樹体生育、収量、果実品質の点で有望と思われた。台負けが認められたが、果実品質は山桃台と遜色なく、実用上は支障ないと考えられる。